

ふるさとの植物を守る

～植物園の新たな役わり～

9/17 土

13:30～16:00

京都府立京都学・歴史館 大ホール
(京都府立大学下鴨キャンパス)

対面・オンライン
併用開催

対面・オンラインともに
要参加申し込み

プログラム

- 13:30～13:35 はじめに 戸部博
- 13:35～14:00 「植物園とは何か? 日本の植物園、世界の植物園」 岩科司
- 14:00～14:25 「みんなで調べる高知県の植物 牧野植物園の取り組み」 藤川和美
- 14:25～14:50 「地域・植物園・研究者の協働による希少植物の遺伝的保全: 芦生と雲ヶ畑を例に」 阪口 翔太
- 14:55～15:20 「となりの植物園: 虫と植物」 大島一正
- 15:20～15:50 「21世紀の植物園の役わり」 山中麻須美
- 15:50～15:55 おわりに 田村実

申し込み・お問い合わせ
大会ホームページ
<http://bsj.or.jp/bsj86/>



主催: 日本植物学会
共催: 京都府立大学新自然史科学創生センター
京都府立植物園
公益社団法人 日本植物園協会



ふるさとの植物を守る

～植物園の新たな役わり～

9/17^土

13:30~16:00

対面・オンライン併用開催
対面・オンラインともに要参加申し込み



13:35~14:00

岩科 司 (公社日本植物園協会)

「植物園とは何か？日本の植物園、世界の植物園」

日本植物園協会には、117の植物園が加盟している。植物園の働きとしては、植物に関する知識の教育・普及、安らぎの場の提供、植物の研究、そして近年は、人類による環境破壊によって増加している絶滅危惧植物の保全、などである。本講演では、日本および世界の植物園を紹介するとともに、先に述べたような植物園の機能や働きについて紹介する。



14:00~14:25

藤川 和美 (牧野植物園)

「みんなで調べる高知県の植物 牧野植物園の取り組み」

高知県では、高知県植物誌、希少種調査、タンポポ調査・西日本、外来植物調査とその防除活動を、植物調査ボランティアと協働し、牧野植物園が拠点となっておこなってきた。県内で採集した12万点を超える標本資料は標本庫に収蔵され、学術や教育普及目的にも利用されている。

また、市民参加型の活動や地域連携によって、地域の自然を守る人材の育成を推進している。これまでの取り組みを紹介し、県立植物園としての役割とこれからの課題について考えてみたい。



14:25~14:50

阪口 翔太 (京都大学大学院地球環境学堂／人間・環境学研究科)

「地域・植物園・研究者の協働による希少植物の遺伝的保全：芦生と雲ヶ畑を例に」

地域の植物多様性を取り巻く状況には厳しいものがある。野生下で個体群を存続させるのが難しい場合は生息域外での保全が検討されるが、その際には遺伝的多様性に配慮したコレクション作りが望まれる。本講演では、京都府立植物園および地域との協働で推進してきた希少植物の保全事業を実例に、コレクションの最適化や交雑個体の選択的除去を可能にした遺伝分析の効用をご紹介します。



14:55~15:20

大島 一正 (京都府大・院生命環境, 京都府大・新自然史科学創生センター, 京都府立植物園)

「となりの植物園：虫と植物」

昆虫の研究者にとって、研究フィールドが身近にあることは大きな利点となる。演者の所属する京都府立大学は、京都府立植物園のすぐ隣に位置しており、この立地を生かした緻密な調査から、アリと共生するムラサキシジミのようなごく普通種の昆虫にも新たな研究展開が生まれつつある。本講演では、このような「昆虫の研究者が植物園を利用する」メリットと、「植物園に昆虫学が加わる」ことのメリットについて考えてみたい。



15:20~15:50

山中 麻須美 (英国キュー王立植物園)

「21世紀の植物園の役わり」

世界遺産・英国キュー王立植物園は18世紀に王室の庭園として始まり、現在は世界最大の植物園として、また植物研究機関として世界をリードする立場にある。260年以上の歴史の中で時代の変化に合わせ、常にその目的、立場、役割を自ら変化させてきた。今、地球環境が大きく変わる中、植物園の意義をキューの歴史と共に考えてみたい。

